

(案)

第4次国有林野施業実施計画書

(利根下流森林計画区)

計画期間 自 平成24年4月 1日
至 平成29年3月31日

関東森林管理局

目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
（1）伐採造林計画簿	1
（2）水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
（3）水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
（4）資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
（5）資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
（6）伐採総量	4
（7）更新総量	6
（8）保育総量	6
3 林道等の整備に関する事項	7
4 治山に関する事項	9
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	10
（1）保護林の名称及び区域	10
（2）緑の回廊の名称及び区域	10
6 レクリエーションの森の名称及び区域	11
7 その他必要な事項	12
（1）施業指標林、試験地等	12
（2）フィールドの提供	13
（3）その他	13

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

(単位：面積ha、伐期齢 年)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ長伐期	919.96	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
スギ分散伐区	1,105.36	〃	45
ヒノキ長伐期	329.08	〃	80
ヒノキ分散伐区	466.22	〃	50
ヒノキ枝打分散伐区	352.78	伐採面積の縮小、モザイク的配置、照度の確保	50
アカマツ長伐期	114.69	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
アカマツ分散伐区	60.37	〃	50
カラマツ長伐期	444.69	〃	80
カラマツ分散伐区	44.40	〃	50
スギ複層林	153.73		45～90
ヒノキ複層林	65.46		50～100
その他複層林	—		
天然生アカマツ分散伐区	3.62	伐採面積の縮小、モザイク的配置	50
ぼう芽分散伐区	82.61	〃	25
天然林漸伐分散伐区	510.48	伐採面積の縮小、モザイク的配置、伐採率の縮小	70
ブナ漸伐分散伐区	—		
択伐	1,423.36		回帰年は定めない
その他	191.73		定めない
施業群設定外	0.81		
合計	6,269.35		

(注) 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の発揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	58	
スギ分散伐区	123	
ヒノキ長伐期	21	
ヒノキ分散伐区	47	
ヒノキ枝打分散伐区	35	
アカマツ長伐期	7	
アカマツ分散伐区	6	
カラマツ長伐期	28	
カラマツ分散伐区	4	
スギ複層林	17	
ヒノキ複層林	7	
その他複層林	—	
天然生アカマツ分散伐区	—	
ぼう芽分散伐区	17	
天然林漸伐分散伐区	36	
ブナ漸伐分散伐区	—	
択伐	142	
その他	19	
施業群設定外	—	
合計	567	

(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位：面積ha、伐期齢 年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ大径材	5.08	造作材(36cm)	80
スギ中径材	381.71	一般建築材(25cm)	45
ヒノキ大径材	—		
ヒノキ中径材	107.89	一般建築材(22cm)	50
ヒノキ無節柱材	—		
アカマツ大径材	—		
アカマツ中径材	6.72	一般建築材(24cm)	50
カラマツ大径材	4.40	造作材(26cm)	80
カラマツ中径材	15.36	一般建築材(20cm)	50
スギ複層林	—		
ヒノキ複層林	—		
その他複層林	—		
天然生アカマツ中径材	—		
ぼう芽	7.95	しいたけ原木(8~12cm)	25
天然林漸伐	5.12	家具・木工・加工用材(30cm)	70
ブナ漸伐	—		
択伐	—		
その他	—		
生産群設定外	—		
合計	534.23		

(注) 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当計画区の「資源の循環利用林」のほとんどが分収林であるため、標準伐採量は定めないこととする。

(6) 伐採総量

(単位：m³)

区 分		林			地		林地 以外	合 計	
		主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計			
水 土 源 か ん 保 養 タ イ プ 全 林	国土保全タイプ	—	17,607 (310.13)	17,607	6,100	127,579		127,579	
	スギ	スギ長伐期	—	37,534					37,534
		スギ分散伐区	—	31,194					31,194
	ヒノキ	ヒノキ長伐期	—	5,073					5,073
		ヒノキ分散伐区	—	5,521					5,521
	ヒノキ	ヒノキ枝打分散伐区	—	5,835					5,835
		アカマツ長伐期	—	646					646
	アカマツ	アカマツ分散伐区	—	593					593
		カラマツ長伐期	—	3,540					3,540
	カラマツ	カラマツ分散伐区	—	237					237
		スギ複層林	—	7,271					7,271
	ヒノキ	ヒノキ複層林	—	822					822
		天然生かみ分散伐区	—	—					—
	ぼう	ぼう芽分散伐区	—	—					—
		天然林漸伐分散伐区	242	241					483
	択	択伐	733	2,772					3,505
		その他	91	568					659
	施	施業群設定外	—	—					—
		小計	1,066	101,847 (1,279.88)					102,913
計		1,066	119,454 (1,590.01)						
森 と 人 の 基 盤 林	自然維持タイプ	—	—	—					
	森林空間利用タイプ	116	843 (13.15)	959					
	計	116	843 (13.15)	959					
資 源 の 循 環 利 用 林	スギ大径材	—	477	477					
	スギ中径材	25,669	6,026	31,659					
	ヒノキ中径材	9,994	464	10,458					
	アカマツ中径材	1,078	151	1,229					
	カラマツ大径材	—	—	—					
	カラマツ中径材	2,005	—	2,005					
	ぼう	—	—	—					
	天然林漸伐	—	—	—					
計		38,746	7,118 (81.83)	45,864					
合 計		39,928	127,415 (1,684.99)	167,343					
年 平 均		7,986	25,483 (337.00)	33,469					

(注) () は、間伐面積(ha)である。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：材積)

市町村名	林地					林地 以外	合計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
前橋市	842	5,339	6,181				
桐生市	26,841	89,456	116,297				
渋川市	6,132	24,256	30,388				
みどり市	6,113	8,364	14,477				
合計	39,928	127,415	167,343				

(注) 市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	—	38.22	38.22	—	—	—	84.07	122.29
	複 層 林 造 成	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	38.22	38.22	—	—	—	84.07	122.29
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類	—	—	—	—	—	—	—	—
	天 然 下 種 第 2 類	—	13.49	13.49	—	0.73	0.73	—	14.22
	ぼ う 芽	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	13.49	13.49	—	0.73	0.73	—	14.22
合 計		—	51.71	51.71	—	0.73	0.73	84.07	136.51

(8) 保育総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
保 育	下 刈	—	300	300	—	—	—	252	552
	つる切	—	72	72	—	—	—	2	74
	除 伐	—	153	153	—	—	—	2	155

3 林道等の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設 ・ 改良	路 線 名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	田沢（赤面）（林業専用道）	441	1,600	
		梨木（林業専用道）	402	1,400	
		内野（林業専用道）	407	600	
		梨木・内野（林業専用道）	405外	1,520	
		釜ヶ沢第一（林業専用道）	417外	3,100	
		釜ヶ沢第二（林業専用道）	417外	1,000	
		栗生（林業専用道）	437外	4,200	
		楡沢（林業専用道）	428	1,000	
		萱野沢第一（林業専用道）	435	1,400	
		萱野沢第二（林業専用道）	434	1,000	
		奥山（林業専用道）	441外	1,500	
		熊の沢（林業専用道）	444外	2,000	
		沢入（林業専用道）	445	1,600	
		柳原（林業専用道）	455	350	
		釈迦堂（林業専用道）	455	400	
		高畑第一（林業専用道）	457	380	
		高畑第二（林業専用道）	457	280	
		大崩（林業専用道）	456外	5,200	
		忍山（林業専用道）	461	1,000	
		キノコ石（林業専用道）	461	1,600	
		三境（林業専用道）	463	1,000	
		上藤生沢（林業専用道）	463	1,500	
		花輪第一（林業専用道）	449	1,200	
		花輪第二（林業専用道）	449	800	
		赤岩（林業専用道）	290外	1,520	
		格上木の間の間分線 （林業専用道）	298一部	1,100	

基幹・ その他別	開設 ・ 改良	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	横掘横掘支線(林業専用道)	308外	1,000	
		北沢(林業専用道)	321	1,380	
	小計	28路線		40,630	
その他	改良	田沢(赤面)	432	100	土留工
		田沢(梨木楡沢)	417	100	
		高畑	457	20	
		高沢	459	20	
		忍山	461	30	
		内野	407	30	
		楡沢	428	20	
		萱野沢	434	20	
		奥山	440	20	
		沢入	445	20	
		古大屋	430	30	
		田沢(小中)	447	20	
		潜下	325	30	
		前山	331	30	
		子持山	315	20	
		八木沢	307	30	
		横掘	307	20	
		木の間	299	30	
		木の間赤岩支線	297	30	
		小野子	渋川市	20	
小計	20路線		640		
合計	開設	28路線		40,630	
	改良	20路線		640	

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
287、293～295、300、303、 305、306、310、312、317、 327、328、331～334、340～ 342、344、401、402、404、 405、408、409、412、413、 416、418、419、421、424～ 427、429～431、434～436、 438、442、443、445～452、 455～461	保安林の整備	本数調整伐 除 伐 保 育	538 h a
318、320、327～329、331、 334、339、342、401、405、 410、417、419～421、425、 429、430、458、459、461、 463	保 安 施 設	溪 間 工	58箇所
329、335、339、342、402、 403、410、412、421、425、 428、431、461		山 腹 工	
合 計	保安林の整備		538 h a
	保 安 施 設		58箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

当計画区では、下記の保護林を設定し、遺伝資源の保存等を図っていくこととする。

種 類	名 称	既設 ・ 新設	面積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資源 保 存 林	根本沢シオジ	既設	21.28	464 い	シオジ、ツガ、ミズナラ、その 他広葉樹等の遺伝資源の保存
林木遺伝資源保存林計			21.28		
合 計			21.28		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	既設・新設	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
森 林	花見ヶ原	既 設	54.72	黒檜山の東面に位置し、ミズナラ、カンバ類の下層にツツジ類が生育しており、キャンプ場等の施設が整備されている。	425 る	育成複層林 施業
					423 イ 425 イ～ロ ₂	林地以外
ス ポ ー ツ 林	利平茶屋	既 設	145.19	赤城山東面に位置し、バンガロー等の施設が整備されており、キャンプを中心とした青少年の合宿等夏期滞在型として利用されている。	412 る ₃ 、わ、よ 413 ろ、は ₂ 、に ₁ ～ほ ₂ 、 と ₁ ～と ₃ 414 と ₁ 、よ、た	育成複層林 施業
					412 る ₁ 、る ₂ 、か、た～そ 413 い、は ₃ 、ち ₂ 414 と ₂	天然生林 施業
					412 イ ₁ 、イ ₂ 413 イ～ロ ₄	林地以外
森林スポーツ林計			199.91			
風 景 林	五万石山	既 設	102.42	榛名山の北東に位置し、アカマツ、コナラ、ミズナラを主体とする天然生林で構成され、優れた自然景観を呈しており県道・渋川～松井田線に接する近景林である。	286 い～ほ ₂	天然生林 施業
					286 イ ₁ ～ロ	林地以外
風景林計			102.42			
風 致 探 勝 林	赤城山	既 設	97.84	赤城山頂カルデラ湖「大沼」の東岸に位置し、駒ヶ岳、黒檜山の西斜面の区域である。山頂カルデラを中心に自然が織りなす景観に優れ、県営の国民宿舎、テニスコート等の施設が整備され、登山や自然探勝、休養活動に利用されている。	335 い～へ	天然生林 施業
					335 イ ₁ ～ロ	林地以外
風致探勝林計			97.84			
合 計			400.17			

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種 類	名 称	設定年	面 積 ha	位 置 (林小班)	備 考
試 験 地	内 野 収 穫 試 験 地	昭 41.10	2.26	406 は	成長量・収穫量及び林分構造の 推移の解明
	小野子山成長量 試 験 地	昭 34.11	1.36	299 へ	林分成長量の推定及び予測
	シカ食害対策 試 験 地	平 19. 3	1.90	405 わ ₂	ニホンジカの高密度生息地にお ける人工林伐採跡地の天然更新 による森林造成の可能性の解明
小 計			5.52		
次代検定林	一般次代検定林	昭 47.5	1.66	434 ち ₃ 、ち ₄	各種精英樹クローンの遺伝特性 の検定 (関前第09号)
	遺伝次代検定林	昭 61.6	0.80	290 わ ₁	各種精英樹クローンの遺伝特性 の検定 (関前第60号)
	一般次代検定林	昭 63.5	1.65	291 は ₁ ～は ₃	各種精英樹クローンの遺伝特性 の検定 (関前第66号)
小 計			4.11		
計			9.63		

(2) フィールドの提供

位置 (林小班)	設定の目的	備 考
317 い ₂ 、り 318 ほ内	社会貢献の森 (天然水の森子持山)	設 定：平成16年11月 実施主体：サントリー株式会社 面 積：7.18ha
411 に ₄ 412 い ₁ ～ろ ₂ 、に	社会貢献の森 (桐生市・サントリー友好の森)	設 定：平成19年 2月 実施主体：桐生市・サントリー株式会社 面 積：14.06ha
325全～334全、344全 345全	社会貢献の森 (サントリー天然水の森赤城)	設 定：平成20年12月 実施主体：サントリー株式会社 面 積：1,299.04ha
323 は、に、か、よ 324 い	多様な活動の森 (あかぎ親しみの森)	設 定：平成14年 4月 実施主体：NPO法人森の会 面 積：44.10ha

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (ha)	施 業 方 法
412 へ ₁ ～へ ₃ 414 ほ、へ、ち ₁ 、れ 423 か 424 れ、な ₁ 、な ₂ 425 ね、む、う、お		育成複層林施業
414 ち ₂ 、そ、つ 423 わ 424 た、ね 425 な、ら、の、く ₁ 、く ₂		天然生林施業
計	73.99	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。

